

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	体表解剖演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	機能訓練治療実習室
担当教員	坂田 年彦	実務経験とその関連資格	理学療法士として医療機関に勤務経験あり。協会活動でスポーツ分野にも携わる。修士(人間科学)取得。			
《授業科目における学習内容》						
肉眼解剖学の一部で、運動器を構成する骨、靭帯、神経、動脈の触察を行いその構造を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(50%)、実技試験(50%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢〔改訂第2版〕						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。放課後等を利用して実技練習をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
触診は理学療法評価にも繋がるため、授業以外でも繰り返し練習すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	触察の概論基本的な方法を理解し説明できる	教科書		教科書の骨の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	触察の概論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨や靭帯について理解し、説明できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨・靭帯の概論			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	部分骨模型、全身像に組み上げられる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨模型組立			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨のランドマークが触察できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(上肢帯～前腕)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	手指の骨のランドマークが触察できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(手部)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	大腿～膝の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(骨盤～大腿骨)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝～足趾の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(大腿骨～足趾)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	体幹の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(椎骨)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	第4回～第8回で行った触察が実施できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(上肢まとめ)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	第4回～第8回で行った触察が実施できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(下肢・体幹まとめ)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の神経が触察できる	配布プリント	解剖生理学の神経の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	神経の触察(上肢の神経)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢・体幹の神経が触察できる	配布プリント	解剖生理学の神経の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	神経の触察(下肢体幹の神経)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の靭帯が触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	靭帯の触察(上肢)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の靭帯が触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	靭帯の触察(下肢)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	各所で脈拍が触察できる	配布プリント	解剖生理学の動脈の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	動脈の触察		